(一) 843号 【昭和27年9月25日 第三種郵便物認可】 THE MIIKE (毎月1日、16日発行) 昭和43年4月1日(月)

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話③3033番
③3034番
編集兼発行人 古賀徳継
年間600円 送料共

おねがい

▼…組合員・家族の皆さん、どうか本紙にいろんなご意見や要望を寄せてください。機関紙〝みいけ〟をもっともっとみんなのものにしてゆきましょう!

三たびCO災害? 殺されてたまるか!!

抗議に終始一貫「生産第一」の会社

職場新聞「三本線」より

二十九日午後九時、四山鉱五三〇メートル主要排気道五昇で、坑内火災が発見された。

三川鉱からの連絡で初めて確認され、九時三十分救護隊招集、十時四十分現場到着、十一時五十分消火した。

鉱に十時に到着した保安副長は坑内の各現場に待機の指示を出しそれを確認したとして、報道関係者に『坑内の現場の作業者は、安全に退避のできる体制に入った』と発表した。

事実は曲げられない!!

保安副長は連絡したのであるが三川の二度にわたる教訓と反省は生かされず、現場の取制はそれをまったく無視して、生産を続行、あるいは連絡を行なわず、三川へ通ずるベルトはうなりを上げていた。社宅では肉親を気づかう家族が戸外に立たづんでいた。

以上が経過の報告であるが、この中には、私たちの血が逆流するような幾多の問題がある。三番方のわれわれは保安副長に抗議を行ない、報道関係者の質問にはその事実を説明した。

3月31日、四山鉱災害に抗議して24ストを決行。四山鉱正門にデモをかけた。

怒りの抗議問題点を追及

保安副長、具体策示さず

一、保安に対する会社の考えは?

何をおいても生命の尊さは一番である。『保安第一』『ご安全に』という会社の考えはいずこにあり、われわれの〝生命〟をどう思っているのか!

二、三川の災害後の、避難訓練の成果は?

会社は曲がりなりとも訓練を実施してきた。その際の事項が、どうして実際にできないのか!本番時に出炭を強制するのは何事か。

三、連絡の不徹底の原因は?

坑内作業者の中には、火災を知った者もあり、昇坑まで知らされなかったものもある。連絡経統の責任者の処罰は!保安副長の指示後の確認は!坑内不審を認めながら入坑させた理由は!

四、今後の対策の具体的なものは?

この追及に副長は〝みなさんの意見を十分に反映させる〟とあいまいに答えるだけで『事の重大さ』『生命までに及ぶ火災』の発生にも、人間らしい返答はしなかった。われわれの怒りを無視すればするだけ、会社の非道が報道者の前にも明らかに立証されていたのである。

「誰が退避せろと言った!早く仕事をせろ」

とある転制

鉱長室の連絡を受けた某係員は担当の作業者に待期を命じ、事故の確認に全力を上げた。これに対しある転員は〝誰が退避せろといった、仕事場へもどれ〟とどなりつけたという常識には考えられない事実もある(高田さん談)

原因は火の不始末、だがその裏には—

原因は揚水パイプ回収のガス熔接の火であるそうだが『生産第一主義』『合理化』『生命よりも石炭』と、どうしてもいわざるを得ない。現在の出炭が、人命(保安)軽視と労仂強化の上に成り立っていることは、鉱で仂くものとして理解できると思う。

〇〇の恐怖もはや対岸の火でない!

このことは早くから主張してきた。不幸中の幸であったが、三川の二の舞いは当然予測される。地底に仂くものとして叫び行動に移すのは、いまをのがして他にはない。いまからでも遅くはない。われわれは人間として、仂くものとして、自分、家族、そしてみんなの幸せのため、保安の問題に決然と立ち上がるべきだ——。

現場労仂者に責任転嫁

許せない生産第一主義

三月二十九日、午後八時十五分発見された四山鉱西五昇の坑内火災は日産二万五千トン出炭を強行し、第四次合理化でますます奴隷労働を強要しようとしている三井のやり方を如実にあらわした。

三池労組は三月三十一日、責任追及と原因究明のために三十四時間ストに突入し、四山鉱に抗議を行なったが、災害に抗議し第四次合理化を阻止することは、CO闘争の延長としても、もはや絶対勝ちとらねばならない課題となってきた。

連絡もせず

当日の状況はつぎの通りである。

三月二十九日、

二一・一〇ごろ現場で正木組(三建)が火気を使用し作業を終る

一五・三〇 稲津係員現場附近を点検した。

二〇・一五 三川鉱三百五十メートル排気道で川端(三建)係員らが煙を発見。

二一・〇〇 倉岡三川鉱長より四山鉱長室へ電話連絡。

同時刻ごろ四山鉱三番方入坑はじめる。会社は連絡せず。

二一・三〇 四山救護隊招集。

二一・四五 三川救護隊招集。

二二・一〇 各部内の係員のみに状況を説明したらしい。

二二・四二 救護隊現場へ到着。

二三・五六 火災は消火、救護隊は一班を残し昇坑。

責任は保安の手抜きに

三池鉱業所の中村所長は四月三十日の毎日新聞によると、「まったく現場作業員のミスである」と語り、労働者へ責任を転嫁している。

しかし、四、五千トンペースだった四山鉱の出炭が八千二百トン台にまで増強され、そのウラで保安の確保がつぎつぎに手抜きにされている。

火災現場は十四年間も手入れされていない坑道であり、作業時は消火の準備もされていなかった。

前後の点検もなされず、連絡にいたっては、「死んでも仕方がない」といわんばかりのデタラメさである。

とくに安武当直係長が「坑内に待機させている」とウソをいい、マス・コミを踊らせたことは許せない。

落ちる米(ドル)の信用

==金問題理解のカギ==

昨年来あたりから、ゴールド・ラッシュとか金戦争とかいわれてヨーロッパで金(きん)を買いあさる動きがはげしくなり、ついに三月十七日には、アメリカなど七カ国が金の売り止めを決めるなどたいへんな状況になっています。これはいったい、どういうことなのでしょうか。

金・ドル通貨体制

こんどの〝金騒動〟のそもそもの原因はドルが金(きん)ほど信用されていないことからはじまりました。いまの国際通貨制度は金・ドル体制ともいわれ、金と金の代用品であるドルが国際通貨として使われていることです。本来、アメリカの国際通貨にすぎないドルが世界貿易の決済通貨としてまかり通っているのは、通貨制度の胴元であるアメリカが「各国中央銀行の要求があれば、いつでも一オンス=三十五ドルの公定ねだんで金にかえますよ」という約束があるからです。こうしてアメリカは世界にドル支配の体制をつくりあげました。それも、アメリカがたっぷり金をもっていればこそのこと。

金準備

一国が外国に対する支払いと国内通貨発行のために手持ちしている金準備。アメリカの金準備が問題になるのは、ドルが金に結びついているからです。アメリカは世界の金準備の七〇%以上をもっていました。ところが一九五〇年代からアメリカの金流出ははげしくなり、三月十四日現在では百十四億ドルになってしまいました。いっぽう他国の金準備はフランス五十二億ドル、西ドイツ約四十二億ドル、イタリア約二十三億ドルなど百五十億ドルをこえ、民間の短期ドル債務をあわせると三百億ドルとなってアメリカの金準備を上回っています。各国が手持ちドルを金にかえるよう要求したらアメリカはお手上げ。そこで早いとこ金にかえておこうとゴールドラッシュ(金買い)が起こったのです。

ドル危機

世界一のカネ持ちアメリカから金がなくなったのは、アメリカがベトナム戦争をはじめ全世界に戦争と侵略の政策をひろげてきた結果です。ベトナム戦費だけでも年間二百五十億ドル。ほかに海外駐留の軍事費や〝経済援助〟の名目で巨額のドルをばらまいています。そのためアメリカは貿易収支では年間三、四十億ドルの黒字になっているのに、国際収支全体では逆に十五億ドルの赤字。だから課徴金とかさまざまのドル防衛策を講じても効果はしり抜け。ベトナム人民の総決起に二十五万人増派説がでていますが、この費用だけで四十億ドルの出費になるといわれます。

金プール

ロンドン、パリには世界有数の金市場があり、一オンス=三十五ドルの公定歩合で金を買うことができました。金の価格が異常に高くなればドルの価格が下がり、世界の通貨制度にガタがきます。そこで一九六一年、アメリカ、イギリス、西ドイツ、イタリア、オランダ、スイス、ベルギー、フランス(昨年脱退)が集まって金プール制をつくりました。各国が金をだしあって(アメリカ六〇%)、金の価格が上がりそうなときは、各国のプールした金をロンドン市場で売って値上げを押えてきました。しかしドルへの不安は年々高まるばかり、ゴールドラッシュを防ぎきれませんでした。そこでさきごろの七カ国会議は金プールの解散を決めたのです。

ドル切り下げ

金プールの解体で、アメリルは外国政府にはこれまでどおり三十五ドルの公定相場で金を売りますが、金市場では売らなくなります。いわば、通貨の世界の金と金市場のモノの関係を断ち切ったわけです。しかしドル不安がなくならない限り、金市場の値動き(高騰)が公定相場にひびかない保障はありません。そこで結局、金価格の引きあげ=ドルの切り下げがあるのではないかと考えられています。かりに金一オンス=七十ドルになればドルの値打ちは半分。日本など手持ちの金が少ない(三億三千万ドル)ので、金価格が上がってももうけは少なく、逆に十六億ドルばかりもっているドルは半値となって大損。円の値打ちが下がってインフレになりかねません。日本も諸外国のようにドルを金にかえてたらよさそうなものですが、そこはそれ、対米ベッタリ外交で、アメリカに「ダメだ」といわれれば、ハイ、それまでョ。

【KNA】